

竹田徳則（たけだ とくのり）

1978 年日本福祉大学社会福祉学部卒業，1982 年国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院卒業，1982 年から名古屋市厚生院，有馬温泉病院などで勤務，その後 2003 年茨城県立医療大学保健医療学部助教授，2005 年星城大学リハビリテーション学部教授，博士（社会福祉学）。

現在・これまでの主たる研究・仕事の内容

高齢者を対象とした作業療法の臨床を踏まえ，現在は教育の傍ら主に 2 つの研究を進めている。まず，愛知県武豊町において，武豊プロジェクトに関与し介護予防を意図し一般高齢者を対象として，ポピュレーション戦略に立ってソーシャル・キャピタルに着目した地域介入研究とその効果の検証を行っている。つぎに，日本老年学的評価研究（JAGES）の一員として，全国 31 自治体約 10 万人の高齢者調査と追跡データの分析から認知症の心理社会的危険因子の解明に取り組んでいる。

報告要旨

高齢社会の日本では，要介護高齢者の減少に向けた健康寿命の延伸や介護予防の推進が課題となっている。健康については，これまでは個人の生活習慣に着目して運動や喫煙と飲酒，食事などの好ましくない習慣の改善が中心で進められてきた。一方，2005 年頃からは人々の絆である信頼感や協力関係，社会参加や社会的ネットワークとサポートなどソーシャル・キャピタルの豊さと健康との関連が報告されている。そして個人ではなく地域住民全体を対象としたポピュレーション戦略による健康増進と地域・まちづくりの重要性が指摘され，各地で取り組みが模索されている。

リハビリテーション領域の理学療法と作業療法に目を向けると，これまでの各種障害の改善を指向したアプローチに加えて，地域住民に対するリハビリテーション技術の特徴を生かした健康支援や介護予防に寄与することが課題となっている。

本シンポジウムでは，演者がこれまで関わってきた武豊プロジェクトについて，地域住民が主体となって運営している「憩いのサロン事業」を活用した介護予防事業のコンセプトや介入理論，プログラム評価デザイン，「憩いのサロン事業」の経過，人々の信頼感や協力関係など心理社会面の変化を示しつつ，「人・社会のありようと健康」について考える。